



今回の発見！

東海道を歩く

徳川家康が、東海道の宿駅制度を定めたのは慶長6（1601）年、今から407年前のことです。起点となる日本橋が架けられ、松並木や一里塚が整備され、宿場の施設が整っていききました。今日に至るまで、東海道は日本の大動脈としての役割を果たしてきました。

日本橋をたち、品川を過ぎると神奈川県に入りまします。当時、県内には川崎、神奈川、保土ヶ谷、戸塚、藤沢、平塚、大磯、小田原、箱根の9つの宿場がありました。

茅ヶ崎には、藤沢と平塚の「間の宿」として、四谷、菱沼（牡丹餅）、南湖の3つの「立場」と呼ばれる休み所がありました。本陣などの宿場としての機能はありましたが、小規模でした。

市内を東西に走る東海道。まずは、藤沢の一里塚から元町の一里塚までの約4kmを歩いてみましょう。

「生涯学習課文化財保護担当」



⑧一里塚（元町）

日本橋から数えて14番目の一里塚です。昭和初期まで北側対になる塚がありましたが、道の拡幅のために取り壊されてしまいました。



⑤熊野神社

小和田の鎮守。菱沼の元宮から祠が吹き飛ばされて今のところに移されました。神様が今の地を気に入りて降んだのだそうです。



④上正寺

木造聖徳太子立像と旧寛永寺の石灯籠は、市の文化財に指定されています。かつては、下寺尾に存在した大伽藍を誇る寺院だったとの伝承が残っています。



⑦ほたもち立場跡

「菱沼茶屋町藤荷餅」によって建てられた説明板が目玉です。当時、この辺りは小高く、茶店が多く建っていました。



⑥広徳寺

真言宗の寺院。改築前の本堂の落天井に飾られていた花鳥図などの天井絵は江戸時代後期の作で、現在も保管されています。



③明治天皇御小休所跡の碑

明治元（1868）年に明治天皇が京都と東京を往復する際に南湖の本陣と小和田の新倉長左衛門の畑で小休止しました。戦前、由緒在る所として記念碑が建てられ、昭和36（1961）年に再建されました。



②松並木（赤松町付近）

市内で数少ない松並木が見られるところです。



①一里塚跡（藤沢市城南一丁目）

距離の目安や休憩の場所として、約4mごとに松やエノキを植えていました。現在は、くいが立っているだけです。

